

# 今 考えるべきは

## BCP対策

◇ 3 ◇

はどこを見定める。そこがダウンすれば全体がストップさせてしまい、企業が存続しなくなるからだ。

次に心臓部に襲いかかる危険因子を列挙する。

BCP策定の考え方は非常に簡単で当たり前のことである。まずは経営の視点から自社の心臓部

定される危険因子の中から可能性の大きなものから順に備えていくのだ。最も基本的な対策は「代替」である。トラブルの発生時には、連鎖して別のトラブルを引き起こす可能性があるため、選択肢を複数選択できるように用意できればベストだ。

「人はどう

か。原材料や製品、社内設備などの「モノ」、重要なデータや書類と

いった「情報」、そして「サービス」の四つだ。それらに想

の4段階である。

「Plan」は、「事業継続計画を策定、改善」

「Do」は、「事業継続計画に基づいて訓練を実施」

「Check」は、「訓練結果から見直しを図る」

「Action」は、「見直し結果を周知徹底」

「見直し」は、「見直し結果を教育等で周知徹底する（Action）」

このサイクルの繰り返しはBCPの精度を高めるだけでなく、社員の意識も高める。策定したBCPが実際に運用可能であり、機能するか確認して備えられるからだ。想定される災害やトラブルが発生した際、自社が継続できる対策を考えてみる。緊急連絡網を作成し、経営面で根幹となる業務の継続方法を社内で共有して訓練しチェックすれば、復旧スピードは劇的に変わる。

BCPに業界や企業規模は関係ない。すべての企業が社会とつながっている現在、BCPの重要性、アウトラインを把握し、取り組める部分からスタートを切ってほしい。社会への影響を強く考える社会貢献度の高い企業が増えれば、社会はより豊かになる。

事業継続計画（BCP）の重要性に気がな

がらも、費用が気になつて、もしくは、難しそうだとつい後回しにしてしまっている企業もあるのではなからうか。

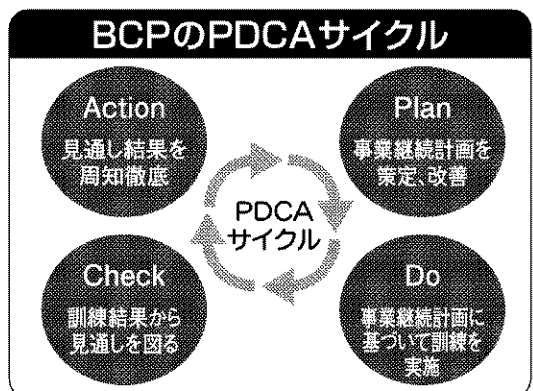
難しく考える必要はない。BCP策定のアウトラインを把握し、第一歩を踏み出してほしい。

プラネット社長

たまにゅう ひろまさ  
玉生 弘昌



## BCP策定のアウトライン



## 心臓部への危険因子把握